

「桜が丘6マインド」を軸に、生徒のよさや成長を教師が語る

広島県・私立広島桜が丘高校

広島県・私立広島桜が丘高校では、生徒の非認知能力「桜が丘6マインド」を見取り、自己肯定感の醸成を図ることで、年内入試への挑戦を支援している。



「自分にもできる」と
気づき始めた生徒たち

広島県・私立広島桜が丘高校は、2023年度から「スーパー進路多様校」を標榜し、生徒一人ひとりの希望進路をかなえる学校づくりに取り組んでいる。その中で教師たちが目指すのが、スクールポリシー「自考自創」の実現だと、桐原琢副校長は語る。

「すべての生徒が自ら考え、自らを創ることで、それぞれの希望進路へ踏み出す学校を目指しています。ただし、『自考自創しましょう』という言葉が教師が繰り返すだけでは、そうした生徒は育ちません。そこで、自考自創のために必要な資質・能力を『桜が丘6マインド』として明確にした上で（図1）、その育成のために必要な教育活動を整理しました」

同校には、中学校で勉強に苦手意識を持った生徒が少なからずいる。これ

図1 スクールポリシー「自考自創」を実現するために必要な資質・能力「桜が丘6マインド」

自信 (じ)	自分を信じ勇気を持って挑戦するマインド
向上 (こ)	成長したいと願い自ら行動するマインド
探究 (う)	興味関心を深く突き詰めるマインド
受容 (じ)	他者を理解し受け入れるマインド
疎通 (そ)	積極的にコミュニケーションを図るマインド
協調・協働 (う)	仲間と共に (のために) 事を成すマインド

※学校資料を基に編集部で作成。

までは、そうした生徒は「自分に進学は無理だ」と早々に進路の選択肢を狭めてしまう傾向にあった。教師も生徒のそのような考えを仕方のないものとして受け入れていた。しかし15年度大入試において、当時3学年担任を務めた沖村将彦先生のクラスから、年内入試で同校初の国公立大学現役合格者が3人出たことで、「自分も高い目標を実現したい」という機運が後輩の生徒たちの中で高まったという。「『自分には進学は無理』という生徒



1 学年主任
沖村 将彦
おきむら・まさひこ
同校に赴任して18年目。進路指導部。地理歴史・公民科。



副校長
桐原 琢
きりはら・たくま
同校に赴任して1年目。

の考えを変えたいと思いました。年内入試では、志望理田書などで、高校生活を通じて自分が何者になったのか、大学で何を学び、社会で何をしたいのかが問われます。生徒には、将来やりたいことを進学後に始めるのではなく、小さなことでもよいから今始めようと声をかけ、学校行事や生徒会活動などに積極的に取り組むことを勧めました」

未来と今をつなげて「マイ・ストーリー」をつくった生徒が年内入試で成果を上げたことで、数値化しにくい非認知能力にも目を向けて生徒の日々の成長を認め、自己肯定感を育むことの重要性が校内に浸透した。それが23年度からの「自考自創」及び「桜が丘6マインド」の周知と、その育成のために必要な教育活動の推進力となっている。

「自分を語る力」を
生徒に育む

生徒のメタ認知を促す
授業改善を推進

同校が掲げる「スーパー進路多様校」とは、生徒の多様な志望を100%実現する学校のことを意味する。そうした学校になるためには、生徒には志望を語る力が、教師には生徒の志望を引き出す力が必要だと、桐原副校長は語る。それは「マイ・ストーリー」が、生徒と教師双方の力でつくり上げていくものであるという考えからだ。

「進路についての答えを持っているのは、教師ではなく生徒です。高校入學段階では自分に自信が持てない生徒も少なからずいますが、そうした生徒にも、『こんな進路を歩きたい。そのためには、今をこのように生きたい』と、自分の今とこれからを結びつけて語れる力を育まなければなりません」生徒に自分を語る力を育むためにはメタ認知が必要だと考える桐原副校長

は、23年度からの学校改革の一環として、自考自創を実現するために必要な桜が丘6マインドの観点で、生徒が授業や単元ごとに自分を振り返るワークシート(図2)を導入した。

「様々な資質・能力の観点で自分を多角的に振り返れるように、授業も教師による説明一辺倒ではなく、生徒が個人で頑張る時間、グループで考える時間など、多様な活動を盛り込むよう、先生方をお願いしています。そして、『あなたの発言は、自分とは違う立場の人のことを理解しようとしたものだね』などと、6マインドを意識して生徒を見取ること、生徒が授業を通じて自分のよさや価値観を認識することができるようになっています」

授業改善が進むことで生徒のメタ認知は確実に促されると、沖村先生も実感している。

「中学校までの経験から『自分は勉強ができない』と思い込んでいる生徒は、非認知能力の視点で自分を振り返ることで、『自分は教科書の内容を覚えるのが苦手なだけで、物事の本質を深く考えることは嫌いではなかった』と自分を捉え直します。学びの楽しさと、学びを通じた自身の変容に気づいた生徒は、向学心が芽生え、やがて進学を選択肢に入れるようになります」

図2 自考自創を実現するために必要な桜が丘6マインドの観点で自分を振り返るワークシート

教科 地理 単元名 歴史総合 ふりかえりシート /年 2組				
総合評価	問1	問2	問3	問4 問5
自信 向上 探索 受容 疎通 協調 下 9	日々のふりかえりシートを見直し、各非認知能力を設定した回数を記入しなさい。また特にどのような場面で意識し、どのような行動を取ることができたか具体的に記述しなさい。 7-7-1に取り組み時、教科書を見て理解が利かなくなると、そこに自身について振り返り、周りに自分から教えることになりました。非認知能力の受容を意識してお話し、協調ができて、何片寄りか見られる。協力力がパワーアップ課題でも活躍できました。単元テストも良い点が取れました。	単元を通して、あなたの学ぶ姿勢はどうだったか、客観的に振り返り、良かった点と改善すべき点を具体的に記述しなさい。 中学の頃の復習の授業を聞いていて、私は、自分この時代に生かすことや、ここ働いてることをやるべきと、やるべきが在り、理解が深くなって、自分の授業を覚えることに思いました。	単元を通して、あなた自身が自分の意志や判断によって主体的に取り組むことができたことを具体的に記述しなさい。 私の苦手な歴史の先生から、自分の考えを聞いて、理解が深くなり、自分の考えを先生に伝えることができた。先生は思いつく復習をして。	問3 単元を通して、あなた自身が自分の意志や判断によって主体的に取り組むことができたことを具体的に記述しなさい。 私の苦手な歴史の先生から、自分の考えを聞いて、理解が深くなり、自分の考えを先生に伝えることができた。先生は思いつく復習をして。
	問1 日々のふりかえりシートを見直し、各非認知能力を設定した回数を記入しなさい。また特にどのような場面で意識し、どのような行動を取ることができたか具体的に記述しなさい。 自信 向上 探索 受容 疎通 協調 下 9	問2 単元を通して、あなたの学ぶ姿勢はどうだったか、客観的に振り返り、良かった点と改善すべき点を具体的に記述しなさい。 中学の頃の復習の授業を聞いていて、私は、自分この時代に生かすことや、ここ働いてることをやるべきと、やるべきが在り、理解が深くなって、自分の授業を覚えることに思いました。	問3 単元を通して、あなた自身が自分の意志や判断によって主体的に取り組むことができたことを具体的に記述しなさい。 私の苦手な歴史の先生から、自分の考えを聞いて、理解が深くなり、自分の考えを先生に伝えることができた。先生は思いつく復習をして。	問4 なぜあなたは問3のように取り組むことができたのですか？あなたのあなたと比べながらその理由を記述しなさい。 成績のために勉強していたけれど、歴史の勉強も楽しんでいるので、積極的に取り組むことができました。
	問2 単元を通して、あなたの学ぶ姿勢はどうだったか、客観的に振り返り、良かった点と改善すべき点を具体的に記述しなさい。 中学の頃の復習の授業を聞いていて、私は、自分この時代に生かすことや、ここ働いてることをやるべきと、やるべきが在り、理解が深くなって、自分の授業を覚えることに思いました。	問3 単元を通して、あなた自身が自分の意志や判断によって主体的に取り組むことができたことを具体的に記述しなさい。 私の苦手な歴史の先生から、自分の考えを聞いて、理解が深くなり、自分の考えを先生に伝えることができた。先生は思いつく復習をして。	問4 なぜあなたは問3のように取り組むことができたのですか？あなたのあなたと比べながらその理由を記述しなさい。 成績のために勉強していたけれど、歴史の勉強も楽しんでいるので、積極的に取り組むことができました。	問5 単元を通して、新たに気づいた自身の課題について具体的に記述し、さらに成長するために目標していく6マインドを答えなさい。また、どのような行動をずるか具体的に書きなさい。 受容を意識して、思いやり、受容を相手に対して、自分の意見、自分の意見を伝えることで、正しい理解が深くなり、自分の授業を覚えることに思いました。
	問2 単元を通して、あなたの学ぶ姿勢はどうだったか、客観的に振り返り、良かった点と改善すべき点を具体的に記述しなさい。 中学の頃の復習の授業を聞いていて、私は、自分この時代に生かすことや、ここ働いてることをやるべきと、やるべきが在り、理解が深くなって、自分の授業を覚えることに思いました。	問3 単元を通して、あなた自身が自分の意志や判断によって主体的に取り組むことができたことを具体的に記述しなさい。 私の苦手な歴史の先生から、自分の考えを聞いて、理解が深くなり、自分の考えを先生に伝えることができた。先生は思いつく復習をして。	問4 なぜあなたは問3のように取り組むことができたのですか？あなたのあなたと比べながらその理由を記述しなさい。 成績のために勉強していたけれど、歴史の勉強も楽しんでいるので、積極的に取り組むことができました。	問5 単元を通して、新たに気づいた自身の課題について具体的に記述し、さらに成長するために目標していく6マインドを答えなさい。また、どのような行動をずるか具体的に書きなさい。 受容を意識して、思いやり、受容を相手に対して、自分の意見、自分の意見を伝えることで、正しい理解が深くなり、自分の授業を覚えることに思いました。

「何が分かったか・分からなかったか」だけでなく、「自分はどのように学んだか・それはなぜか」を生徒が振り返る。「1人で学ぶのか、ほかの人と話し合うのかを自分で考え、自己決定するような授業を行うことで、生徒が自分らしい学び方、生き方はどのようなものかをメタ認知できるようにになります」(桐原副校長)

生徒が「桜が丘6マインド」の観点で自分を振り返っている箇所

※学校資料をそのまま掲載。

図3 教師のための生徒のエピソード記録シート

期間：2023年1月30日～2月5日				
No.	力	誰が？	どんな場面？	どうした？
①	<input checked="" type="checkbox"/> 自信 <input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 探究 <input type="checkbox"/> 受容 <input type="checkbox"/> 疎通 <input checked="" type="checkbox"/> 協調	1年生 A (バドミントン部)	2/4 (土) 広島県 学年別大会 (バドミントン)	前大会は緊張に飲み込まれ1回戦負けだったが、顧問の「大きな声を出せば気持ちも大きくなる」という助言を実践し、自信を持って試合に臨み、ベスト8 (5位) に入った。
②	<input checked="" type="checkbox"/> 自信 <input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 探究 <input type="checkbox"/> 受容 <input type="checkbox"/> 疎通 <input type="checkbox"/> 協調	3年生 G	1/30 (月) 卒業試験	高3になるまで満点を取ることがなかったが、2学期に日本史Bの試験で初めて満点を取ることができ、その後も継続した努力と徹底した準備をすることで、卒業試験において学年で唯一の満点を取った。
③	<input checked="" type="checkbox"/> 自信 <input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 探究 <input type="checkbox"/> 受容 <input type="checkbox"/> 疎通 <input type="checkbox"/> 協調	3年生 J	1/30 (月) 卒業試験	年度当初は目立たない存在で、クラスの上位ではあるものの、トップを取ることはなかったが、今までで一番クラス平均点が低かった卒業試験においてクラストップと唯一の平均90点以上を達成した。

実際の記録シートは2ページで、10個のエピソードを記入できるようになっている。「10個のエピソードをどれぐらいの時間で記入できるかを試してみることで、自分が日々生徒をどれぐらい見取ることができるのかを確認することができます」(桐原副校長)
 ※学校資料を基に編集部で作成。

実践 2

「生徒を語る力」を教師に育む

生徒を見取る力を問う 教師のための記録シート

教師が生徒の志望を引き出したり、生徒の現状と課題を整理したりして、「マイ・ストーリー」づくりを支援す

「あなたはこのように語ると、教師が生徒のよいところを語ることは、生徒の自己肯定感を育むだけでなく、自己理解も促します。その生徒のよさ、適した進路を見抜く力が教師には求められます」(沖村先生)

23年度から導入された「生徒のエピソード記録シート」は、自考自創を実現するために必要な校が丘6マインドを手がかりにして、実際にどの生徒が、どんな場面で、どんな行動をしたのかというエピソードを記録するための

ツールである(図3)。

「本シートを記入する時に、生徒の姿をすべに思い出し、具体的な様子を語れるかどうかで、教師が日常的にどのくらい生徒を見取ることができているかをセルフチェックできます。また、記入した内容を教師間でシェアすることで、生徒の見取りを豊かにすることができます」(桐原副校長)

自己肯定感が十分に高まっていない生徒は、「マイ・ストーリー」を他者に語ることを恐れがちだと、沖村先生は言う。だからこそ、どんな夢を語っても笑われることなく、深く生徒を理

解した教師から「あなたはきっと大丈夫だよ」と励ましてもらえるような心理的安全性に満ちた教室をつくりたいと考えている。

「一人ひとりの生徒が必ず持っているそれぞれのよさを教師が把握し、語ることができるようになれば、生徒は堂々と『マイ・ストーリー』を話し始めます。今後、6マインドを手がかりに生徒をしっかりと見取っていくことで、自分を語る必要がある年入試に、生徒が果敢に挑戦できるよう、支援体制を整えていきたいと思えます」(沖村先生)

展望

週5コマの探究学習など、生徒が自身の成長を自覚する場を拡充

同校では23年度から「総合的な探究の時間」を週5コマに拡充。1年次では「楽しさ」とは何か?」をメインテーマに、e-Sports大会の開催など、プロジェクト型の探究学習を通じて身近な興味・関心の価値に気づかせるとともに、自己有用感を取り戻させることもねらいとしている。2年次以降は、地元・広島県の課題に向き合い、理想の姿を考えさせる予定だ。「探究学習は年内入試で合格するための最大の武器の1つであるという共通認識の下、全教師が探究学習にかかわる体制を整備しました」(桐原副校長)

同校は、進学したいという気持ちを言い出せないまま生徒を卒業させないためにも、生徒が非認知能力の向上を果たせるような場を充実させ、そこでの成長をメタ認知できるように仕組みを構築する考えだ。